

○一般社団法人 日本森林学会 2018 年度第 3 回（通算第 466 回）理事会 議事録

日時：2018（平成 30）年 9 月 28 日（金）13:00～17:00

場所：日林協会館 3 階 大会議室

開催者：黒田慶子

出席者：会長）黒田慶子，副会長）田中浩，小島克己，理事）玉井幸治，柿澤宏昭，紙谷智彦，正木 隆，伊藤 哲，松本麻子，福田健二，井鷲裕司，大久保達弘，大河内 勇，船田 良，中村太士，横井秀一，監事）堀 靖人，主事）山川博美，岩永青史，滝 久智，小田智基，古川拓哉，岡本 隆，澤野真治，木村 恵，竹内啓恵，當山啓介，東原貴志，編集部）町田庸子 [学会誌刊行センター] 事務局）稲村崇子，オブザーバー）木暮甲吉 [林野庁]，網田克明 [全林試協]

議長：黒田慶子

審議事項：

本理事会で議論・決定された事項は以下の通りである。

1. 第 131 回大会（名古屋大学）における行政からの参加促進

竹中大会運営委員長の代理として玉井理事より，行政からの大会への参加を促進し意見交換を活性化するため，開催地近隣の県や市町村に対して非会員の行政担当者を対象に，各機関 2～5 枚程度の大会聴講招待券の無料配布を行うことが提案された。これに対し，会員との不公平感があるのではないかと，近隣の県や市町村の範囲はどこまでか，などの意見が出され，実施することの必要性は確認されたが，細部を検討したうえで再度審議することとなった。

2. 著作権内規の制定

玉井理事より，新たに制定する著作権内規について，これまでの議論の経緯と変更点が説明されたのち，内規の制定について提案された。議論の結果，一部文言の修正のうえ承認された。また，転載許可願のフォームについても不備を修正されたものが提案され，提案のとおり承認された。

3. 第 129 回大会（高知大学）の決算

柿澤理事より，第 129 回大会の決算について 256,338 円の赤字であり，赤字分から利息を差し引いた 256,846 円を指定正味財産（大会準備引当資産）から補填したことが報告され，承認された。

4. JFR 投稿規定等の改定

伊藤理事より，現在，JFR の投稿者向けの情報として，①T&F 社の Journal of Forest Research のウェブサイト上の Aims and Scope, Instructions for Authors, Style guideline と，②日本森林学会のウェブサイトにある規則集（3-3 Instruction for contributors (JFR) および 3-4 Manuscript preparation (JFR)) があり，一部が不統一であるため，これらを T&F 社のものに統一し，それを正規の投稿規定・執筆要領に相当するものとして位置付けることが提案され，提案のとおり承認された。

5. 「森林科学」執筆要領の改訂

松本理事より，これまで紙面の節約を目的とした引用文献のタイトル省略を認めてきたが，J-Stage で当該引用文献に自動リンクが付与される確率が下がることが判明したため，引用文献のタイトルを原則表記することとする執筆要領の改訂が提案され，提案のとおり承認された。

6. 著作権に関わる要領の整備

松本理事より，著作者本人の権利については，現行の要領4-2の問題点の整理に基づき，著作者本人の権利を制限し過ぎない著作権の管理と，PDF別刷りの位置づけの明確化が必要であること，

第三者による利用については、追加の情報収集と日林誌、JFR、森林科学の三誌で調整を経て整備する必要があるとの説明がなされ、今後三誌で検討することが確認された。

7. 森林科学の広告掲載

松本理事より、新規の広告獲得の可能性を広げるために、株式会社科学技術社と広告代理店契約を締結すること、現行の広告掲載料の料金体系の見直し案について提案され、承認された。

8. 表彰規則運用内規の改訂

井鷲理事より、現在、候補業績が連名の場合に、署名または記名捺印した共著者の承諾書の原本提出が必要となっているが、共著の場合は共著者の承諾書またはそれをスキャンしたデジタルファイルでの提出を可能とするため、表彰規則運用内規の改訂が提案され、文言の修正のうえ承認された。

9. 男女共同参画学協会連絡会からの協力依頼

高山理事の代理として竹内主事より、内閣府男女共同参画局総務課より、マスコミや行政等での事案発生を受けての緊急対策として、「セクシュアルハラスメント防止対策」の周知について協力依頼があり、本学会ウェブサイトやメーリングリストでの情報提供を行いたいとの提案があり、提案のとおり承認された。

10. ダイバーシティ推進委員会の設置

森林学会では、2018年5月に担当部門を「男女共同参画」から「ダイバーシティ推進」へと変更した。また、昨今の社会の趨勢として、多様な人材が活躍できる強靱な組織の構築が求められていることもあって、今後学会としても、より多様な会員が学会活動に積極的に参画できる環境を整えることが求められている。そこで、今後、より活動を推進するためダイバーシティ推進委員会を設置することが提案され、メンバーなどを選定したうえで再度審議することとなった。

11. 前回までの議事録の承認

玉井理事から、2018年度第2回理事会の議事録が提案され、提案のとおり承認された。

12. 次回理事会の開催時期

次回理事会は12月に開催することになった。

報告事項：

1. 第130回大会（新潟大学）の準備状況

紙谷理事から、大会スケジュール、市民公開シンポジウム、予算案、企業展示、懇親会などの準備状況について報告された。公開シンポジウムの開始時間について、ポスター発表のコアタイムと重なっているとの意見が出され、開始時間を遅らすように調整することとなった。

2. 第131回大会（名古屋大学）の準備状況

竹中千里運営委員長の代理として玉井理事より、大会運営委員会を組織したこと、会期は2020年3月27日～30日とし、名古屋大学全学教育棟および豊田講堂を会場とすることが報告された。

3. プログラム編成担当からの報告

梶本理事の代理として玉井理事から、公募セッション5件、企画シンポジウム13件の申し込みがあり、すべて採択となったことが報告された。

4. 総務担当からの報告

玉井理事より、本年度発行予定である会員名簿の作成状況、GDPR（EU一般データ保護規則）へ

の対応状況、5件の後援依頼を承認したこと、ポスドク（PD）会員の年会費の減額について検討を始めたことが報告された。また、2019年度のJSPS科研費（研究成果公開発表）については、北方森林学会の発案により日本森林学会として応募に向け準備中であるとの報告がされた。

5. 会計担当からの報告

柿澤理事より、2018年8月31日までの半期決算、理事の担当名称の変更に伴う費目名の変更を行ったことが報告された。

6. 日林誌担当からの報告

正木理事から、投稿審査状況について、昨年から投稿数が増加に転じていること、1審の採否判定が早くなっていることなどが報告された。また、Web of Scienceへの掲載の進捗状況、8月から投稿システムのバージョンアップを行うこと、編集委員として新たに明石信廣氏（北海道立総合研究機構）が就任したことが、報告された。また、新潟大会において学会企画として論文セミナーを検討していることが報告された。その他、編集方針の改定、投稿件数を増やすための取り組みなどを検討していることが報告された。編集方針の改定については、査読方針の決定、冊子体の必要性など意見が出され、今後重点的に議論する必要があることが確認された。

7. JFR編集担当からの報告

伊藤理事から、現在の編集状況、特集「Long-term monitoring and research in Asian university forests: towards further understanding of environmental changes and ecosystem responses」を2020年6月に掲載予定で進めていること、JFR論文賞について候補論文を募集中であることが報告された。また、編集委員として、井上昭夫氏（熊本県立大学）、高木正博氏（宮崎大学）、高田克彦氏（秋田県立大学）、特集限定編集委員として、Im, Sangjun 氏（Seoul National University）、Guan, Bing T. 氏（National Taiwan University）、尾張敏章氏（東京大学大学院）を追加したことが報告された。その他、編集方針や編集体制の変更を検討していることが報告された。

8. 森林科学編集担当からの報告

松本理事から、現在の編集状況、著作権譲渡承諾書の改定を行ったことが報告された。

9. 広報担当からの報告

福田理事から、メールマガジンの発行状況、アドレスリストの更新、ウェブサイトの更新を行ったことが報告された。

10. 国内研究機関連携担当からの報告

中村理事および全林試協の網田氏から、全林試協役員会で「森林・林業関係試験研究機関の現状と研究推進上の課題に関するアンケート調査」の結果に基づいて検討したところ、地域森林学会との連携、研究員の人材育成、論文作成指導の要望等が高いことが報告された。このことについて、地域森林学会との連携や論文作成支援の方法などについて意見が出され、今後の検討課題であることが確認された。

11. 表彰担当からの報告

井鷲理事から、日本農学進歩賞の応募はなく、今年度は学会からの推薦はなしとしたこと、学会各賞の応募状況、農学賞の候補者推薦、次期大会でお学生ポスター賞を昨年と同様の方法で審査を行うことが報告された。

12. ダイバーシティ推進担当からの報告

高山理事の代理として竹内主事から、男女共同参画学協会連絡会第16期第3回運営委員会、男女共同参画学協会連絡会2018活動調査、本学会における近年の会員、代議員、役員の男女比率について報告があった。また、新潟大会で学会員の意見収集を目的にワークショップの開催を検討していることが報告された。

13. 林業遺産担当からの報告

佐藤理事の代理として當山主事から、2017年度までの林業遺産の選定数、2018年度の選定スケジュール、選定された林業遺産の公表・プレスリリースのタイミングを検討中であることが報告された。また、林業遺産事業の林野庁との連携、学会ウェブサイトに掲載した林業遺産に関連する写真の二次利用の規定について検討を行っていることが報告された。

14. JABEE担当からの報告

大久保理事から、(一社)森林・自然環境技術者教育会と(公社)森林保全・管理技術研究所の合併について、報告があった。

15. 学協会連携担当からの報告

大河内理事から、9月10日に開催された日本学術会議公開シンポジウム・防災学術連携体緊急報告会「西日本豪雨災害の緊急報告会」(台風21号の緊急報告および北海道胆振東部地震の緊急報告)において、浅野志穂会員(森林総合研究所)が発表を行ったことが報告された。

16. 中等教育連携推進担当からの報告

横井理事から、新潟大会での第6回高校生ポスター発表の準備状況等について報告があった。また、中等教育連携推進委員会委員のうち、塚原雅美氏(新潟県森林研究所)を崎尾均氏(新潟大学)に交代したことが報告された。

17. 国際交流担当からの報告

田中副会長から、学会ウェブサイトの英語ページをアップデートしたこと、中国林学会より中国北部ないし東北部で開催されるナラ文化広報活動(oak culture advertising activity)での招聘講演者の推薦の依頼があったが、スケジュールの調整ができず、断りする旨連絡したことが報告された。また、日中、日韓森林学会のMOUに基づき、どのような協力関係を進めるのか(例えば、数年に1回のシンポジウムの開催、学術大会への相互の招待など)については検討を続けることが報告された。

18. 企画・社会連携担当からの報告

大住理事の代理として玉井理事から、総会時のシンポジウムについて、井上真理子氏(森林総合研究所)より、「研究と実践現場をつなぐー森林教育研究の挑戦」(仮)の提案があったこと、社会連携委員会の新体制づくりの準備をしていることが報告された。

19. 木材学会連携担当からの報告

船田理事より、第69回日本木材学会大会(函館大会)の準備状況、また例年とお互いの学会で招待することを予定していることが報告された。また、MOUと結んだ韓国木材学会とは毎年10名を招待し、本部経費で参加費と懇親会を免除していることが報告された。

議事録作成者：玉井幸治、山川博美